



# りんご生産情報（6月号）

令和6年6月5日  
北地区営農係

現在、バヤむしり取り期間中！！むしれる内にむしってしまいましょう！！

## りんごの肥大状況

5月31日現在の果実肥大は、生態が10日早く経過し、その後も好天で経過しているため、各品種で平年を大きく上回る結果となりました。

単位：cm

地点	つがる	ジョナゴールド	王林	ふじ
新和（平場）	2.6	2.5	2.3	2.1
鬼沢（中間）	2.6	2.6	2.6	2.4
三和（中間）	2.4	2.6	2.5	2.3
十腰内（山手）	2.3	2.3	2.3	2.3
管内平均	2.5	2.5	2.4	2.3
農協平均	2.6	2.5	2.6	2.2

## 1、摘果作業

今年の開花や結実量のバラつきは、昨年の花芽形成時期の高温や、過着果による充実不足が影響されています。

今年も夏場の高温が予想されるため、来年度の花芽を充実させ、養分の分散を防ぎ、果実品質を向上させるためにも、強い摘果を心掛けましょう。

なお、サビ果など障害果も判別ができる時期ですので、積極的に収穫を見据えた着果量まで摘果しましょう。

### 仕上げ摘果のポイント

来年の花芽形成を促すため、7月上旬を目安に行う。

充実している花そうに成らせる。（右図参照）

【充実している花そう】



## 2、薬剤散布

今後、気温の上昇に伴いハダニの発生が懸念されます。量が多くなると、殺ダニ剤を散布しても対応しきれない場合がありますので、今後は予察を行い、発生しているダニに合わせた農薬を散布しましょう。

散布時期	対象病害虫	薬剤名及び混合順序	倍数	1000 当り薬量	防除上の注意
6回目 落花30日後 (6/7頃)	黒星病・褐斑病・炭そ病・輪紋病・ 斑点落葉病・すす斑・すす点病 モシクイガ・ハダニ類 アブラムシ・ギンハハダガ	ラビライト水和剤 サイアノックス水和剤 ネオミクス	500倍 1,000倍 250倍	1kg×2袋 500g×2袋 4kg×1袋	<ul style="list-style-type: none"> <li>・降雨が予想される場合は、前倒して散布してください。</li> <li>・ハダニの発生予察を行い、発生が早い場合は殺ダニ剤の早期散布を検討しましょう。</li> <li>・アブラムシの発生が多い場合は、ウララDF コルト顆粒水和剤 トランスフォームFL いずれかの剤を加用して散布しましょう。</li> </ul>
7回目 落花40日後 (6/17頃)	黒星病・褐斑病・炭そ病・輪紋病・ 斑点落葉病・すす斑・すす点病 モシクイガ・ハダニ類 アブラムシ・ギンハハダガ	ジマンダイセン水和剤 モスピラン顆粒水溶剤 ダニオーテフロアブル カルマツチ	600倍 4,000倍 2,000倍 770倍	1.67kg×1袋 250g×1袋 250ml×2本 1.3kg×1袋	
8回目 7月初め (7/2頃)	黒星病・褐斑病・炭そ病・斑点落葉 病・すす斑・すす点病・輪紋病 モシクイガ・ハダニ類 ギンハハダガ・ギンハハダガ	オキシンドー水和剤 アーデントフロアブル カルマツチ	1,200倍 2,000倍 770倍	835g×1袋 250ml×2本 1.3kg×1袋	
9回目 7月半ば (7/16頃)	黒星病・褐斑病・炭そ病・腐らん病・ 斑点落葉病・すす斑・すす点病 モシクイガ・ハダニ類 コカモハダガ・ギンハハダガ	オキシンドー水和剤 オンリーワンフロアブル フェニックスフロアブル	1,200倍 2,000倍 4,000倍	835g×1袋 250ml×2袋 250ml×1本	

## 4.袋かけ作業

袋かけは落花50日頃が目安となるため、7月10日頃までに作業を進めましょう。袋をかける際には、もう一度着果量を確認し、成らせ過ぎにならないよう注意しましょう。袋かけは薬剤散布後5日以内に行い、間隔が空いた場合は、殺菌剤（チオノック等）で実洗いを行いましょう。また、着果量が不足している園地では、積極的に有袋栽培に取組み所得確保に努めましょう。

令和6年産りんご予約受付実施中！！

現在今年産のりんご予約申込みを受付しております。受付期間は7月19日（金）までとなりますので、1箱でも多い予約をお願いいたします。

